

# まごころ

＝ともに生きる暮らしをめざして＝  
特定非営利活動法人  
尾張地域福祉を考える会まごころ  
まごころ訪問介護事業所  
NPO法人まごころ児童デイ



【報告】

第四回 介護たすけあいフォーラム in 愛知

この程、当会の関係団体でもある全国社会福祉団体協議会（市民）及び市民協あいちが主催した「介護たすけあいフォーラム in 愛知」が開催されました。今年度改革実施に向けての介護保険制度については厚労省、全国所フォーラム全国大会の参加者、福祉系NPO団体など多彩な福祉情報が報告、説明の場となり、福祉を取り巻く環境の急変が伺われました。中でも「福祉系NPOの役割と活動」について各NPO法人団体から出された現状の課題や問題は、それぞれの岐路に立つ福祉系NPO法人の姿が浮き彫りにされていました。

## 福祉NPOの役割はどこ

介護保険制度に参画のNPOは、全国介護保険事業所の5%に達する現状があります。この事実を受け止めるとき、参加型団体として活動を行ってきたNPO法人団体で、介護保険業にも参画した団体の在り様、その実情が生まれています。多くのNPOは、介護保険制度の限度額を超えたサービス提供を望んでいます。

いま「わが町の介護老人施設」は、あいちの特養・老健・有料老人ホーム一覧、市民がずぶの素人の目線で調査し、情報を伝えています。発行：NPO法人「サークル・福寿草」製作協力費：一〇〇〇円

このような受け身の形だけではなく、自分たちが必要と思われるような福祉サービスを創りだして先駆性のある活動団体だった筈です。介護の社会化は、NPOの念願であり、団体運営の根幹もあつた財政を救えたかもしれないが、ややもするとNPOのミッションと事業とのバランスが崩れていくのを懸念しています。

## ボランティア希望者 国民の六割

一人一人の位置づけが活動の輪を広げる。また、今回のフォーラムのテーマである流山裁判の判決についてPPO団体はもっと率直に語ればならないと意見が出された。福祉の貧しさを自らの課題とし、安心して暮らすために取り組んだ助け合い活動に、請負業者という判決をどうとらえていくのか。

助け合い活動がますます必要と国も市民も共に語っています。しかし、国民の六割が希望するボランティア活動者一人一人に活動の意味と位置づけをきちんとしていくことは出来ない。この国は気づかなければならぬといった指摘がなされました。日本にないボランティア法「ボランティア認知法」立法化が望まれています。

No. 38 チェック介護保険・支援費

介護度は上がったけれど、認知症のケアプランは何を軸に一人暮らしの認知症の方の介護度が上がり、これまで限度額を超えて使われてきたサービスの実費負担が減ると思われ、いざというときに、実際には変わりませんでした。なぜでしょうか。

介護保険の介護料はサービスの種類毎に決められています。ホームヘルプサービスの介護料は、介護度に関係なく一定ですが、デイサービスでは、介護度によって介護単価が違ってきます。

このケースでは、介護度が要介護二から三へ上がったために、デイサービス利用の介護料が一回で約三千円づつ高くなることになりました。

従って、介護度が上がり支給限度額が増え、デイサービス介護料の補填分で消化されてしまい、他に必要な在宅支援の介護料に回らなくなり、依然として実費負担が減らないのです。

このケースで出されたケアプランは、デイサービス週四回とヘルパー訪問朝夕で週十四回というプランでした。デイサービスでは、昼間の安全を確保出来ても、デイへ出掛ける前の朝の準備と、帰って来られてからの食事と就寝準備ケアが確保できません。在宅支援は減らすことが出来ない重要なサービスです。

認知症の方へのケアプランは、何を優先させるか大きな課題です。デイサービスを週三回と考えると、介護単価が安い家事支援の何回かは介護保険利用が上乗せ出来、実費負担を減らすことが出来ます。

日中の安全を確保するのか、実費負担を減らすのか、家族が支えるのか選択肢はありますが、言えることは、今の介護保険制度では、家族介護力に頼らなければ、限度額を超えるサービスに終わりは無いです。

## 6年生卒業おめでとう 児童デイサービスNEWS

3月でまごころの児童デイサービスにきていた6年生7名が卒業していきました。あの顔・顔・顔が見られなくなってしまうのは非常に寂しい。これからは元気に頑張りたいと願うしかありません。そんな6年生と先日、修学旅行と称して岐阜県で一泊研修を助け合い活動として実施いたしました。夕食・入浴・朝食・排泄については山荘という事もあってふだんの生活ぶりではなかったかもしれませんが、実際に生活を共にしてみるとデイサービスでは見せる事のなかった素顔を見る事が出来ました。これらの情報は彼らの今後に役立てることは出来ないのでしょうか。つくづく制度の不連続性に憤りを覚えます。中学生になる彼らは児童デイサービスの対象にはならないのです。ともかく、大自然の中で一緒に過ごしたこの経験を思い出してもらえば有難いと思っております。

## スノーシューを履いて雪原を歩くT君



このスノーシュー、意外と人気で置いていたら勝手に履いて歩いているではありませんか、デイではあれや、これやと言って、なかなか進んで動かないのだけれども、興味のあるものには自然と引かれるものがあるのです。キュキュと踏みしめる雪の音を聞きながら林の中を歩く楽しさを分かってくれて本当に嬉しい瞬間でした。そこには障害のあるなしなどまったく無意味な世界なんですから。

報告： 定例勉強会 3月6日 お話：かしの木の里 野崎貴詞さん

- 主なキーワード
- 何が起こるか分からない移動介護はむずかしい
  - ケアマニュアルは役に立たない
  - ケア対象者を好きになる
  - 待つ事ができる人になる
  - 回り道をさせる、すぐに答えをださない